２０２２年度事後評価報告書

1，基本情報

⑴　特定非営利活動法人ＩＴサポート銀のかささぎ

⑵　ＩＣＴ学習支援官民協働事業

⑶　公益財団法人　長野県みらい基金

⑷　分配団体事業名　ＩＣＴ学習支援官民協働事業

⑸　草の根活動支援事業

⑹　2020/3―2023/3

⑺　千曲市・長野市

2、事業概要

千曲市に学習困難な子どもたちの居場所づくりを行い、ICT を活用した学習支援を行うとともに、安心して居ることができる場所を作る。多機関連携によって引きこもりの若者への職業あっせんや不登校改善を行い、その仕組みを ICT ポータルサイトにより全国へ発信する。

(ア) 事業によって解決を目指す社会課題と想定される直接グループ

・社会課題

かささぎは、虐待を受けた子どもが多くいる児童相談所や児童養護施設での学習支援からスタートし、学力向上の成果を上げてきたが、活動を通じて次の課題があった。入所している子どもの多くは児童虐待が原因であるが、その背景に貧困がある。このことから、保護される前の段階に必ず貧困があり、貧困家庭の子どもたちへの学習支援活動も必要であると痛感していた。学習困難に陥ると不登校を招きやすくひいては引きこもりになってしまうため、経験値が欠如し、学習する意欲が失われがちである。

・想定される直接グループ

千曲市内中間支援室の子ども、児童養護施設の子ども、、子ども食堂・子どもの居場所の子ども

（イ）事業の概要（中長期アウトカム・短期アウトカム・活動）

（1）中長期アウトカム				
すべての子ども、若者が家庭環境に依存することなく学習の機会を得られ、ＩＣＴを使った最先端の研究・開発の一端を担い、新しい街づくりに貢献できるようになる。				
（2）短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
1　経済的困窮など、家庭内に課題を抱え不登校になる子どもが、ＩＣＴ学習支援で一歩踏み出せるようになる。	学習困難を抱えた子どもの来訪者数	5 名	初期値の向上	2023 年 3 月
2 千曲市地域を構成する住民、屋代商店街や企業、千曲市教育委員会など様々な資源とつながり、子どもたちを支える。	①会議、ワークショップの開催回数 ②参加団体の数	学習支援　5 名	初期値の向上	2023 年 3 月
3 今まで一歩も外へ出ることができなかった子どもがＩＣＴの力で居場所を訪れ経験値や思考を増やす。	学習コンテンツ数	5 ツール	初期値の向上	2023 年 3 月
4　シニア層が多い団体と協働し、老若男女問わず集まれる拠点が生まれる。	①ＩＴ講習、講演会の開催回数 ②参加者を対象とした満足度・アンケート調査	5 名	初期値の向上	2022 年 9 月

5　ひきこもりがちだが就労意欲のある若者の支援することで、地域の担い手となり、働き手が生まれ、人手不足が解消する。	①ＩＴ講習を毎月開催 ②参加者を対象とした満足度・アンケート調査	5 名	初期値の向上	2023 年 3 月
6　本事業でＩＣＴ学習支援メソッドを作り、全国へ発信する。	①サイトの閲覧数 ②問い合わせ件数	5 企業	初期値の向上	2023 年 3 月

(3) アウトプット	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
1『ＩＣＴちくま未来教室』が不登校の子どもの居場所として開設される。	①『ＩＣＴちくま未来教室』のパンフレットの作成・配布。 ②千曲市・教育委員会・児童養護施設・地域住民への周知。	①1 カ所 ②1 カ所	①10 カ所に配布 ②10 か所に周知	2020 年 12 月
2『ＩＣＴちくま未来教室』で千曲市地域を構成する住民、屋代商店街や企業、千曲市教育委員会など様々な資源とつながる。	①定例会を２か月に１度行う（オンラインでも可）	①０回	①初期値の向上 毎月の定期開催	2021 年 10 月
3　子どもたちの経験の積み木や思考の地平線を広げるため、豊富な学習コンテンツを用意する。	①学習コンテンツの試行錯誤 ②プログラミング講座を毎月開催	①５ツール	①２０ツール	2021 年 4 月

	③参加者へのアンケートの実施			
4　ちくま未来戦略研究機構と協働でＩＴ講習や講演会を開く。	①ＩＴ講習、講演会の毎月開催 ②参加者を対象とした満足度・アンケート調査を行う	①毎月開催 ②２０名参加	①初期値の向上 ②５０名参加	2020 年 9 月
5 「ＩＣＴちくま未来教室」でひきこもりの若者や仕事をしたいが就職できない若者向けの就労支援の講座を開く。	①ＩＴ講習を毎年6回開催オンライン可 ②参加者を対象とした満足度・アンケート調査を行う	①年に 6 回 ②5 名参加	①毎月開催 ②１０名参加	2022 年 4 月
6　ちくま未来ＩＣＴ教育サイトを作り、情報を発信する。	①他地域の問い合わせによる新たな連携 ②賛助会員の増加	①連携団体 2 団体 ②賛助会員 2 企業 個人会員 10 名	①連携団体 5 団体 ②賛助会員 10 企業 個人会員５０名	2023 年 3 月

（4）活動	時期
【1】「ＩＣＴちくま未来教室」が不登校の子どもの居場所として開設される。	
1-1 中間教室、児童養護施設へ訪問、ICT 学習支援デモンストレーション（アウトリーチ）	2020 年 9 月
1-2　子どもの居場所での学習支援　ちくま未来学習教室月 2 回	2020 年 10 月
1-3　不登校の子ども、困難を抱える子どもへオンライン学習の実施（オンラインサポート毎週 1 回）	2020 年 10 月
1-4　ＩＴ教室（プログラミング教室、ロボット教室の運営）月　１回	2020 年 8 月
1-5　ＩＣＴ学習　スタッフ養成研修、先進地視察	2021 年 4 月

【2】「ＩＣＴちくま未来教室」で千曲市地域を構成する住民、屋代商店街や企業、千曲市教育委員会、商工会議所など様々な資源とつながる。	
2-1　ちくま未来戦略研究機構の定例会で『ちくま未来教室』の開設を説明し、協力を依頼。活動の基としての「定例会」に込められた理念の共有化する。	2020 年 9 月
2-2　千曲商工会議所と連携し、『ちくま未来教室』でＩＴ教育を受けた若者の就労支援の協力をお願いする。	2021 年 9 月
2-3　『ＩＣＴちくま未来教室』で、地元商店街や企業、教育委員会、児童養護施設関係者等とワークショップを行う。	2021 年 3 月
【3】子どもたちの経験の積み木や思考の地平線を広げるため、豊富な学習コンテンツを用意する。	
3-1, ICT 授業コンテンツ及びツールの開発・試作・選定	2020 年 8 月
3-2 プログラミングロボットの選定・開発	2020 年 8 月
【4】　ちくま未来戦略研究機構と協働で講習や講演会を開く。	
4-1　シニア（大人）向けＩＴ講座	2020 年 9 月
4-2　ちくま未来と協働で月 1 回の講演会を開く。	2020 年 10 月
4-3　ちくま未来教室のシニアボランティア募集し、講座を開催。子どもたちの学習支援の協力を依頼する。	2021 年 4 月
【5】『ＩＣＴちくま未来教室』でひきこもりの若者や仕事をしたいが就職できない若者向けの就労支援の講座を開く。	
5-1　千曲市や児童養護施設へ出向き、就労支援の講座の周知を依頼する。	2021 年 4 月
5-2　就労支援向けＩＴ講座を開催する。	2021 年 5 月
【6】　多様な困難を抱えた子ども、若者、支える家庭の人々が訪れるように学習の場を作り、情報を発信する。	

6-1　ICT ポータルサイト制作する。	2021 年 3 月
6-2　オンライン学習のコンテンツ掲載	2021 年 9 月
6-3　LINE アカウント取得、SNS で居場所情報発信	2020 年 10 月
6-4　本事業の成果を逐一発信し、他地域との連携をめざす。	2022 年 4 月

（ウ）出口戦略

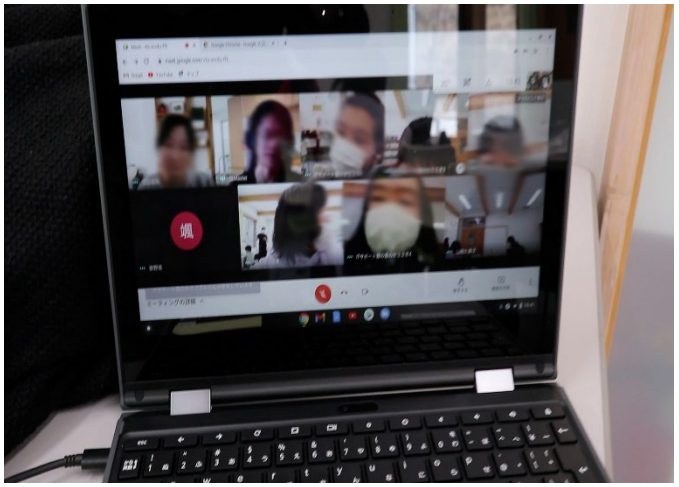
広報戦略
ＩＣＴを用いた学習方法を広めるにあたり、ポータルサイトを作成し、SNS で発信。学習コンテンツの一覧やマニュアルを簡単に引き出せ、誰もが学習ボランティアに参加できる仕組みを構築し、そのポータルサイトを使って、休眠預金等活用事業の成果を逐一発表していく。学習困難な子どもへの支援活動を日本子ども虐待防止学会で発表し、全国の児童養護施設関連団体へ周知する。
連携・対話戦略
ちくま未来戦略研究機構、千曲商工会議所、千曲市教育委員会と連携し、子どもたちや高齢者の居場所への参加状況を確認しあい、不登校解消等、不足ならばその手立てを探る。年に 2 回、進捗状況の報告などを兼ね、ワークショップ、報告会を行う。

3、事後評価実施概要

①　実施概要

Outcome1 ちくま未来教室で居場所づくり

コロナ渦で居場所づくりができない間、オンラインとアウトリーチに切り替える
①オンライン学習の試行錯誤
松代福祉寮で東京の学生とオンラインイベントを行って、オンライン学習に慣れる
②グレーゾーンの子どものアウトリーチ
三本柳小学校のグレーゾーンの子どもたちににっこりひろばでタブレット学習やプログラミング学習をして、教頭先生からは、学校の近くの居場所での学習支援にとても感謝されました。
③2020/11 にキックオフをし、アウトリーチから対面学習へ移行できました。



経済的困窮など、家庭内に課題を抱え不登校になる子どもが、ＩＣＴ学習支援で一歩踏み出せるようになるために、「ちくま未来教室」を地元の団体「ちくま未来戦略研究機構」と協働で立ち上げたことで、千曲市地域を構成する住民、屋代商店街や企業、千曲市教育委員会など様々な資源とつながり、子どもたちを支えるために、教育委員会でのヒアリングで不登校の人数や中間教室での学習支援まで話をすることができた。しかし、コロナ渦でちくま未来教室へ足を運ばせるのは難しかったので、対面学習からオンライン学習へ切り替え、学習支援方法の試行錯誤を繰り返した。児童養護施設松代福祉寮と学生ボランティアとのオンライン学習を行うための環境を整え、長野市内だけでなく東京の学生ともつながり、多くの知見を得た。また、不登校支援であるが子どもの居場所にっ

こりひろばでグレーゾーンの子どもに昼休みの学習支援を行った。にっこりひろばのアウトリーチでは三本柳小学校の教頭からグレーゾーンの子どものモチベーションを保つために、小学校から少し離れた場所での学習支援がとても有効であったと、大変感謝された。
長野市の生活支援課と連携し、2022/10 より、経済的困窮家庭への学習支援を始めることになり、困窮家庭への訪問し月 2 回 2 時間学習支援を行っている。また、長野市篠ノ井公民館学習ルームにて、母子家庭の中学生へ学習支援を行っている。中学生の場合、成績はクラスで 5 番であるが、経済的な理由で塾に行くことが出来ないので、月 2 回の学習支援を待ちわびている。現在　7 名への学習を行っている。2022/12 月より　児童養護施設 恵愛でＡＤＨＤやＬＤを抱えた子ども 4 名への学習支援を始めた。小学校では特別支援級の子どもであるが、タブレット学習に興味を持ち、学習障害があるとは思えないほど集中して取り組んでいる。現在は 4 名の子どもが月 2 回学習しているが、タブレット学習が好評で今後増やす予定である。

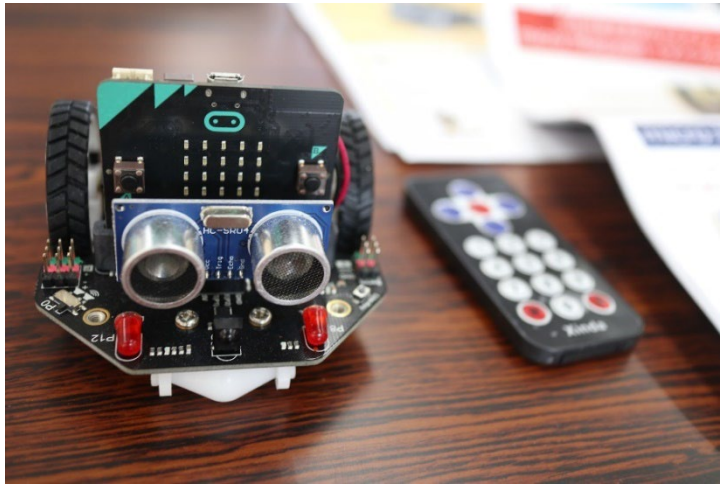
Outcome 2 地元の様々な資源とつながる

①「ちくま未来教室」を地元の団体「ちくま未来戦略研究機構」と協働で立ち上げたことで、千曲市地域を構成する住民、屋代商店街や企業、千曲市教育委員会など様々な資源とつながり、子どもたちを支えることができた。
②教育委員会でのヒアリングで不登校の人数や中間教室での学習支援まで話をすることができた。
③地元の団体や駅前商店街、児童養護施設、市教委とつながることができ、コロナが収まった 2020・11/14 にキックオフの講演会を開くことができた。その後、月 2 回の学習支援、ちくま未来戦略研究機構と協働で行ったちくま未来無料学習塾、講演会を行うことができた。

「ちくま未来教室」を地元の団体「ちくま未来戦略研究機構」と協働で立ち上げたことで、千曲市地域を構成する住民、屋代商店街や企業、千曲市教育委員会など様々な資源とつながることができた。子どもたちを支えるために、教育委員会でのヒアリングで不登校の人数や中間教室での学習支援まで話をすることができた。地元で英語のフリースクールを行っている団体とつながり、2020 年 11 月 14 日「ちくま未来教室」のキックオフを行い、学校教育では補え切れない子どもたちがいることに対して、フリースクールのような自由な教育についての議論が進んだ。私たちの活動についても、様々な学びの観点から ICT 学習の重要性について各方面に周知することが出来た。

Outcome３ＩＣＴの力で居場所を訪れ経験値や思考を増やす

①多くの ICT 機器を研究し、取り入れることで、最先端のプログラミングに触れることができ、購入した機器のレンタルシステムを取り入れることで経済的に不遇な子どもたちへ学習ツールを提供できた。
②コロナ渦でのオンライン学習の試行錯誤は、その後の学習支援の一翼を担うことになった。
③コロナ渦にならなければ、かささぎの ICT 学習支援もオンライン学習やオンライン会議、オンラインの講演会なども受け入れられることはなかったかもしれない。コロナ渦はかささぎにとってよい追い風ともなった。

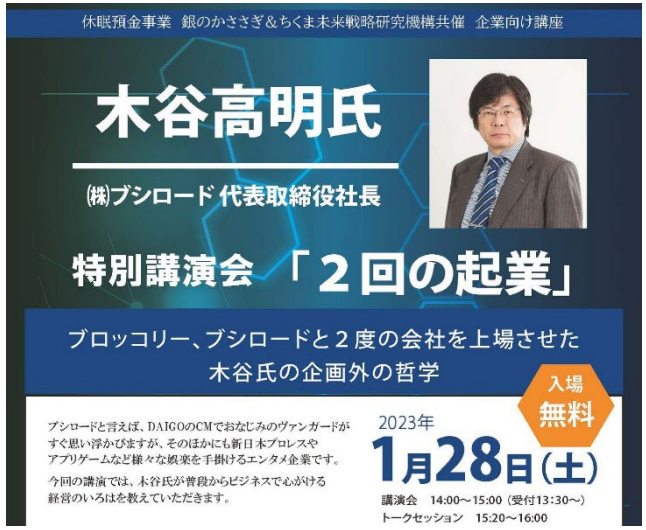


今まで一歩も外へ出ることができなかった子どもがＩＣＴの力で居場所を訪れ経験値や思考を増やすであるが、3 年間で多くの ICT 機器を研究し、取り入れることで、最先端のプログラミングに触れることができ、レンタルシステムを使うことで経済的に不遇な子

どもたちへ学習ツールを提供できた。特に、コロナ渦でのオンライン学習の試行錯誤は、その後の学習支援の一翼を担うことになった。コロナ渦にならなければ、かささぎの ICT 学習支援もオンライン学習やオンライン会議、オンラインの講演会なども受け入れられることはなかったかもしれない。コロナ渦はかささぎにとってよい追い風ともなった。
インタビューの結果、児童養護施設の子どもは、スマホを持てなかったり、一人一台のタブレットを持てなかったりして、GIGA スクール政策の盲点であるが、かささぎのアウトリーチによって、ＩＣＴがより身近な学習ツールとなり、施設での学習に欠かせないものとなってきていることがわかった。
三年間、ちくま未来教室の通った子どもの父親にインタビューしたところ、当初プログラミング学習に取り組んでいたが、タブレット学習に興味を持ち、算数や英語教材に取り組むようになった。多分、人に教わるのではなく自学自習で行えるところがよかったのではないかとのお話であった。その子は現在プログラミング学習でも多くの作品を残している。

Outcome４　シニア層が多い団体と協働し、老若男女問わず集まれる拠点が生まれる

①ちくま未来戦略研究機構と協働することで、元会社社長や前市長など地元の有力者とつながることができ、多くの市民向け講演会をちくま未来教室で行うことができた。
②27 回の講演会を続けることで結果、サロンとしての役割を担い、シニアの居場所にもなった。企業会員を増やすための講演会では、東京に本社を置くゲーム会社や地元の一部上場企業の社長の講演会を行い、今まで参加しなかった層にアプローチできた。
③シニア向けＩＴ講習では、スマホ教室やＳＮＳ教室などシニアのお悩み解決講座を企画して好評を得た。ちくま未来大学として来年度以降も継続して講座を行うことが決まっている。



休眠預金事業を行う上でもっとも意識した他団体との協働であるが、かささぎはちくま未来戦略研究機構と協働することで、元会社社長や元市長など地元の有力者とつながることができ、多くの市民向け講演会をちくま未来教室という居場所で行うことができた。コロナ渦にもかかわらず講演会をほぼ毎月続けることで 3 年間 27 回の講演会を協働で行くことが出来た。結果、サロンとしての役割を果たし、シニアの居場所にもなった。
企業会員を増やすための講演会では、東京に本社を置くゲーム会社や地元の一部上場企業の社長の講演会を行い、今まで参加しなかった層にアプローチできた。シニア向けＩＴ講習では、スマホ教室やＳＮＳ教室などシニアのお悩み解決講座を企画して好評を得た。ちくま未来大学として来年度以降も継続して講座を行うことが決まっている。

Outcome 5　ひきこもりの若者や仕事をしたいが就職できない若者向けの就労支援の講座を開く

① ひきこもりがちだが就労意欲のある若者の支援することで、地域の担い手となり、働き手が生まれ、人手不足が解消するであるが、商工会議所や市役所で対象者への働きかけを試み、講座を企画したが、なかなか対象者にリーチできなかった。かささぎが得意とする児童養護施設の子どもたちは 18 歳までで、その後は自活してしまうためひきこもりがちな若者へのアプローチの難しさを感じた。
② はみんぐやふくろう SUWA にきている引きこもりの若者に IT 講習をオンラインでできないか模索している。
③ 現在取り組み始めているちくま未来大学で、就職のための IT 講座を企画している。

商工会議所や市役所で対象者への働きかけを試み、講座を企画したが、なかなか対象者にリーチできなかった。かささぎが得意とす

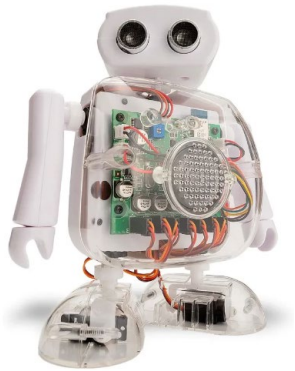
る児童養護施設の子どもたちは 18 歳までで、その後は自活してしまうためひきこもりがちな若者へのアプローチの難しさを感じた。

同じ休眠預金事業を行っている団体で、伊那で活動しているはみんぐを訪問し、インタビューしたところ、引きこもりになる状態の前から不登校支援を行い、その活動は自治体の支援を受け、居場所も自治体の施設の中に設けていたことが分かった。また、学習支援やスポーツ支援をしていた。伴走支援のみらい基金の取り計らいで、今後は、はみんぐやふくろうＳＵＷＡなど引きこもりの若者支援をしている NPO と連携し、かささぎが得意とするオンラインを使って就職に必要になるパソコン講習やイラストレーター、Photoshop ＩＴ講習などを提供していけたらと考えている。

Outcome 6　ちくま未来ＩＣＴ教育サイトを作り、情報を発信する

①特に SDGs の観点から企業の CSR 部門より、かささぎへの協力の問い合わせが増えました。
②株式会社 Dirbato から経営コンサルティングのプロボノの申し出で、運営面から支えていただいた。
③キッセイコムテックから、飯綱町教育委員会の ICT サポーター事業を受託することができました。
④長野市生活支援課からは困窮者学習支援事業の依頼を受けました。
④日本ライオンズクラブからは寺小屋事業の委託、日立から児童養護施設の子どもへの支援の申し出を受けることができました。
⑤富士通、日立から寄付や児童養護の ICT 学習での連携の問い合わせがありました。

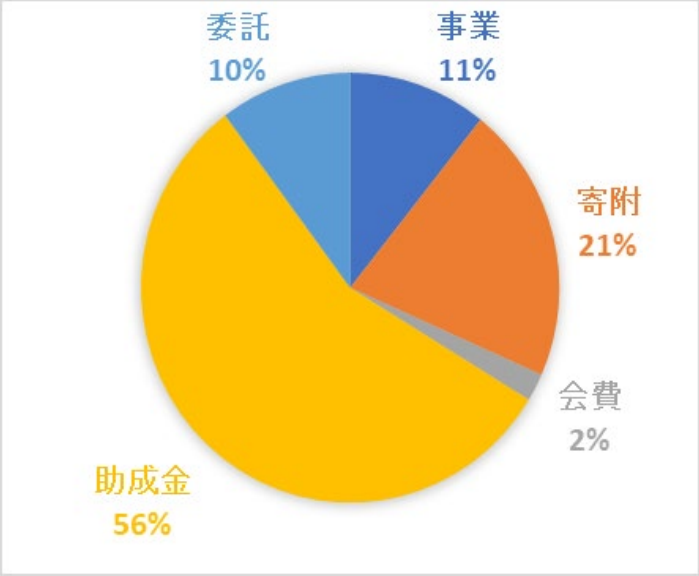
sony toio


Qumcum（クムクム） 二足歩行プログラミングロ

発信当初より、問い合わせが増えて驚いている。特に SDGs の観点から企業の CSR 部門より、かささぎへの協力の問い合わせが増えた。特に株式会社 Dirbato から経営コンサルティングのプロボノの申し出で、運営面から支えていただけたのが大きかった。キッセイコムテックからは、飯綱町教育委員会の学習支援の委託や長野市生活支援課からは困窮者学習支援事業の委託の話、日本ライオンズクラブからは寺小屋事業の委託、日立から児童養護施設の子どもへの支援の申し出など、想定していなかった問い合わせが多かった。今まで、助成金頼みの財政状況であったが、多くの分野からの資金を集めることができるようになり、来年からの運営を確かなものとした。

改善された現状の財源構成の分析

現状の財源構成とその金額	
財源の種類	金額
事業収入	７９２，０００円
寄付収入	１，５４５，６０５円
会費収入	１５５，０００円
助成金・補助金収入	４，１４３，０００円
委託料収入	７５３，６００円



★　昨年に比べ、事業収入と委託料収入が増え、 助成金が収入のほとんどを占めていた 収益構造が改善されました。。

② 実施体制（内部／外部、評価担当役割、氏名、団体・役職）

③ 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名（非公開）	団体・役職
内部	インタビューの実施	山越久美子	理事長
内部	アンケート調査の実施	宮内輝美	監事
内部	アンケート集計	沼田恵実	事務局
外部		青木幸雄	千曲市教育委員会指導主事
外部		宮下孝子	児童養護施設　松代福祉寮　施設長
外部	事業設計の妥当性	西沢秀文	一般社団法人　ちくま未来戦略研究機構理事

4，事業の実績

4－1インプット（主要なものを記載）

(1) 人材　　メンバーの人数　事務局　3名
学習支援ボランティア　8名
ICT・プログラミング開発担当　2名
SE　　1名

(2) 資機材　　パソコン　8台
アンドロイド　5台
iPad　　20台
配信機材　ビデオカメラ1台　三脚、マイク、
オンライン学習教材　20名分

プログラミング教材　幼児用、microbit　２０名分　toio　５台

(3)経費実績 助成金の合計　　9,200,000 円　コロナ　2,720,175 円　　合計　11,920,175 円

①　契約当初の計画金額　9,200,000 円

②　実際に投入した金額　11,920,175 円

(4)自己資金　750,000 円

①　契約当初の自己資金の計画金額　750,000 円

②　実際に投入した自己資金の金額と種類　750,000 円

③　資金調達で工夫した点　ホームページで発信して全国から寄付してくれる会社や団体を増やした

４－２活動とアウトプットの実績

(1)　主な活動

・ちくま未来教室開設　学習支援　月 2 回、プログラミング教室　月 2 回

・シニア向け ICT 教室

・ちくま未来戦略研究機構と協働で講演会を月 1 回運営

・アウトリーチ　児童養護施設学習支援　松代福祉寮、恵愛　月 2 回

三本柳にっこりひろば　月 2 回

・プログラミング学習教材の開発

・ICT ポータルサイトの制作

・ICT 学習の手引き作成

・児童養護施設やちくま未来教室でオンライン学習

①　実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	指標の達成状況	達成状況＊
1『ＩＣＴちくま未来教室』が不登校の子どもの居場所として開設される。	①『ＩＣＴちくま未来教室』のパンフレットの作成・配布。	１０か所	2021 年 7 月	① パンフレット作成・配布終了　500 部	2
	② 学習困難を抱えた子どもの来訪者数	③ １０名	２０２１年7月	④ 来訪者数の数 2020 年度　245 名 2011 年度 4 月～3 月　349 名 2022 年度　4 月～9 月　214 名 不登校支援 2020 年度　28 名 2021 年度　72 名 2022 年度　4 月～9 月　28 名 ※令和 3 年 7 月現在千曲市内小中学校不登校数　16 名、中学校　不登校者数 38 名	1
	③ 千曲市・教育委員	② １０か所	2021 年 7 月	③ チラシの小中学校	2

	会・児童養護施設・地域住民への周知。			への配布、ホームページ、ちくま未来新聞への掲載、教育委員会へチラシ配布	
2『ＩＣＴちくま未来教室』で千曲市地域を構成する住民、屋代商店街や企業、千曲市教育委員会など様々な資源とつながる。	①定例会を 2 か月に１度行う（オンラインでも可）	① 初期値の向上　毎月の定期開催	2021 年 4 月	毎月 1 回開催	2
3　子どもたちの経験の積み木や思考の地平線を広げるため、豊富な学習コンテンツを用意する。	①学習コンテンツの試行錯誤	①　２０ツール	2021 年 4 月	Microbit、クムクム、m１などのプログラミング教材 8 ツール、幼児用プログラミング教材、iPad 小中教育アプリ、Microsoft office 教材、タブレット学習オンライン学習用機材、ICT ラボを設立して、最先端の技術を研究	2
	②プログラミング講座を毎月開催	② 月２回	2020年10月	2020 年 10 月より月 2 回プログラミング学習とタブレット学習を行っている。コロナで休校の際はオンラインを	2

				行う。夏休みは20日間毎日夏期講習を行った。	
	③参加者へのアンケートの実施	③　毎回実施	2020年10月	参加者アンケートの集計	2
4　ちくま未来戦略研究機構と協働でＩＴ講習や講演会を開く。	①ＩＴ講習、講演会の毎月開催	①　毎月開催５０名参加	2020年9月	講演会（市長など有識者の講演）と一般向けIT 講座を月 1 回行った。ちくま未来戦略研究機構と協働で行い、場所は千曲市役所1階ガレリアや千曲市観光会館など、多くの人が集まる場所で開催している。現在の参加者は累計1254名。	2
	②参加者を対象とした満足度・アンケート調査を行う	②　５０名調査	2020年9月	まちづくりや地元の歴史、近隣の町長など、多岐に渡るテーマで、満足度は 80％以上である。	2
5 「ＩＣＴちくま未来教室」でひきこもりの若者や仕事をしたいが就職できない若者向けの就	①　ＩＴ講習を毎月開催	①　毎月開催	2023年3月	三本柳にっこりひろば、松代福祉寮、恵愛へアウトリーチを行なっ	3

労支援の講座を開く。				た。千曲市教育員会と連携したが、引きこもりがちな若者との接点がなく、難しい。	
	②参加者を対象とした満足度・アンケート調査を行う	②　１０名	2023 年 3 月	同上	3
6　ちくま未来ＩＣＴ教育サイトを作り、情報を発信する。	①他地域の問い合わせによる新たな連携	①連携団体５団体	2021 年 7 月	日本ライオンズクラブと連携し、子どもたちへの ICT 学習支援を、長野県、石川県、静岡県、富山県で広めることになった。 日本ライオンズクラブ、認定 NPO 法人カコタム、NPO 法人セイブアライフ、子ども・若者サポートはみんぐ、ぷれジョブ長野支部、さんぼんやなぎにっこりひろば、松代福祉寮、恵愛、三帰寮、反貧困セーフティネット・アルプスと連携している。	1

	④ 賛助会員の増加	② 賛助会員１０企業個人会員５０名	2023 年 3 月	ポータルサイトからの問い合わせが増え、賛助会員が 8 社になった。 プロボノ活動として、東京のコンサルタント会社から週 1 度のコンサルを受けている。	2

＊達成状況：1 計画より達成できた 、2 計画どおりできた 、3 計画よりできなかった

４－３　外部との連携の実績

(1) 長野市生活支援課から生活困窮者学習支援事業の委託業者となり、困窮家庭への学習支援を行っている（派遣型）

(2) キッセイコムテックから飯綱町教育委員会の小中学校の ICT サポーター事業を請け負い、月 3 回飯綱町へ派遣している。

(3) 公益財団法人日本ライオンズクラブと、児童養護施設の学習支援を推進する事業を行うことになり、かささぎは、中部:東海及び北信越地区)の主管組織と位置づけられ、各地区 5 ケ所の児童養護施設への学習支援を目指している。現在、富山の学習支援場所を探している。

(4) IT コンサルティングの株式会社ディルバートから基盤整備のためのコンサルをプロボノで受けている。週 1 回、6 名のコンサルタントが、ブランディング強化、ファイナンシング強化のための 6W1H 分析を行い、毎週 1 回 1 時間のミーティングを行っている。

(5) 長野県児童養護施設施設連盟と連携し、子どもへの学習支援について情報を共有している。

(6) ちくま未来戦略研究機構と協働で会議を月 1 回行いながら、市民向け講座を毎月実施することで、本事業の取り組みを周知して賛助していただけそうな方を増やしている。

5，アウトカムの分析

5－1アウトカムの達成度

（1） 短期アウトカムの計画と実績

(2) 短期アウトカム	指標	初期値／初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期	アウトカム発現況（実績）	事前評価時の短期アウトカム
1　経済的困窮など、家庭内に課題を抱え不登校になる子どもが、ＩＣＴ学習支援で一歩踏み出せるようになる。	学習困難を抱えた子どもの来訪者数	５名	初期値の向上	2023 年 3 月	２０	1
2 千曲市地域を構成する住民、屋代商店街や企業、千曲市教育委員会など様々な資源とつながり、子どもたちを支える。	①会議、ワークショップの開催回数 ②参加団体の数	学習支援５名	初期値の向上	2023 年 3 月	毎月１回 ８団体	2
3今まで一歩も外へ出ることができなかった子どもがＩＣＴの力で居場所を訪れ経験値や思考を増やす。	学習コンテンツ数	５ツール	初期値の向上	2023 年 3 月	１８ツール	3
4　シニア層が多い団体と協働し、老若男女問わず集まれる拠点が生まれる。	①ＩＴ講習、講演会の開催回数 ②参加者を対象とした満足度・アンケート調査	月１回 満足度 ７０％	初期値の向上	2022 年 9 月	５３回 満足度 ９３％	4

5　ひきこもりがちだが就労意欲のある若者の支援することで、地域の担い手となり、働き手が生まれ、人手不足が解消する。	①ＩＴ講習を毎月開催 ②参加者を対象とした満足度・アンケート調査	5名	初期値の向上	2023 年 3 月	1回 0	5
6　本事業でＩＣＴ学習支援メソッドを作り、全国へ発信する。	①サイトの閲覧数 ②問い合わせ件数	5企業	初期値の向上	2023 年 3 月	2,281 35 件	6

（2）アウトカム達成時についての評価

1　経済的困窮など、家庭内に課題を抱え不登校になる子どもが、ＩＣＴ学習支援で一歩踏み出せるようになる。→当初月 1 回の開催であったが、月 2 回以上行い、夏期講習、春期講習など 2020 年度は 97 名、2021 年度は２０３名、2022 年度は 420 名の利用者が訪れた。シニア向け講習者は 2020 年度 133 名、2021 年度 329 名、2022 年度 355 名で、この 3 年間、ちくま未来教室を訪れた人数は 1537 名に上る。

また、受講の満足度であるが、受講後のアンケートによると 80%以上の人が内容に満足しており、次回に期待している。

２　千曲市地域を構成する住民、屋代商店街や企業、千曲市教育委員会など様々な資源とつながり、子どもたちを支える。→ちくま未来戦略研究機構に属しているメンバーが千曲市を構成する住民、商店街の店主、企業のオーナーなどが多く、その他、千曲市教育委員会や英語研究会、算数研究会など地元の教育関係者とつながることができた。とくに、夏期講習の時は、千曲市及び千曲市教育委員会の後援を得て、市内

小中学校へチラシを配ることができたので参加者が増加した。ステークフォルダーピラミッド（参考資料）を作成したところ、3 年前より関連団体や関係者の数が倍増し、活動を下支えしていただける企業や団体が増えた。

３　今まで一歩も外へ出ることができなかった子どもがＩＣＴの力で居場所を訪れ経験値や思考を増やす。→　ちくま未来教室開設当初は、microbit とアンドロイドだけのツールであったが、研究の結果、toio、Qumcom、chromebook、幼児向けプログラミング教材など、様々なツールを用意することができた。特に、プログラミング学習の低年齢の塾が周囲にないため、長野市から定期的に通う子どももいた。経済的に困難を抱える家庭の子どもたちだけの参加ではないが、一般家庭の親御さんの中にも無料で学習できるのはありがたいという意見が多かった。一般のプログラミング教室は高額なセットの購入や月謝代がかかり（一カ月月謝 15000 円、プログラミング機材 7 万円購入など)、子どもたちの塾代が捻出できない家庭も多く感謝された。はじめは体験学習でやってきた子どもも、よしレベルの高い内容を求めることが増えて、ICT ラボを作った。子どもだけではなく、AI や IOT に興味のある大人が集まって好きなコンテンツで研究することを目的した ICT ラボであるが、現在、６名が在籍している。

４　シニア層が多い団体と協働し、老若男女問わず集まれる拠点が生まれる。→ちくま未来戦略研究機構と協働することで、ちくま未来教室で、毎月の講演会、IT 講習、会議、懇親会、学習支援などを行い、老若男女問わず集まれる拠点ができた。ICT を学びたい人たちが子どもだけでなく、社会人にも多くいることに気づかされた。もともとかささぎは少ない人数でアウトリーチに特化した団体であったが、ちくま未来戦略研究機構と協働で事業を行うことで、居場所の確保や集客など今まであきらめていたことが実現できた。また、こちらが得意とする IT 力を提供することで、ネットでの集客や発信などお互いの事業を助けあうことができ、本事業が成功した要因の一つに繋がる。

５　ひきこもりがちだが就労意欲のある若者の支援することで、地域の担い手となり、働き手が生まれ、人手不足が解消する。→こちらは、ひきこもりがちの若者との接点を見つけることができなかった。千曲市や商工会議所で講座の提案をしたが、人を集めることができなかった。ひきこもりの問題の根深さを感じた。

６　本事業でＩＣＴ学習支援メソッドを作り、全国へ発信する。→月２～３件ではあるが、かささぎの支援の申し出の企業からの問い合わせが増えた。企業も社会課題の解決こそ、対外的に重要な取り組みであると考える風潮が芽生え、ICT で学習支援をしているかささぎへの興味

や問い合わせが増えたと思われる。ICT で学習支援を行っている NPO として１０年の実績があり、SEO 対策のおかげで、上位にヒットするようになり、休眠預金事業を採択されたことで社会的に認められるようになったことが、問い合わせの向上につながったと考えられる。

５－２波及効果（想定外、波及的・副次的効果）

①　コロナ渦でのアウトリーチ・オンライン

①児童養護施設松代福祉寮でのアウトリーチ
児童養護施設の子どもは、スマホを持てなかったり、施設に帰っても ICT に触れる機会がなく、GIGA スクール政策の盲点であるが、かささぎのアウトリーチによって、ＩＣＴがより身近な学習ツールとなり、施設での学習に欠かせないものとなってきていることがわかりました。
②グレーゾーンの子どものアウトリーチ
三本柳小学校のグレーゾーンの子どもたちににっこりひろばでタブレット学習やプログラミング学習を行い、教頭先生からは、学校の近くの居場所での学習支援にとても感謝されました。
③オンライン学習の試行錯誤を行いコロナ渦での学習方法の検証をしました。検証結果は自治研の論文にまとめました。

当初は想定していなかった新型コロナウイルスでの自粛期間に、本事業を見直して、オンライン学習を取り入れたり、アウトリーチを増やした。結果、児童養護施設２カ所、子どもの居場所１か所での学習支援を行うことができた。Ｚｏｏｍを使った学習支援の検証やプログラミング学習のオンライン学習など、他団体にはできない強みがわかり、子どもからシニアまで、多くの需要があることがわかった。

② ちくま未来教室　夏期無料塾

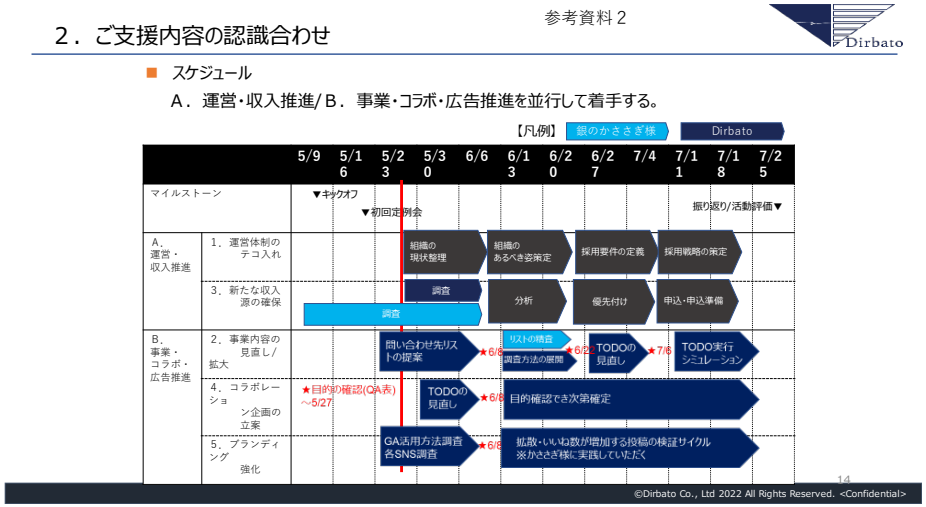
①プログラミング学習、英語教室、算数教室、宿題応援日、ペンタブレット、バルーンアート教室など、夏休み中毎日開催し、多くの子ども、若者が訪れました。
②困窮家庭学習支援をしている団体として、NHK から取材を受けました。10 年前より、家庭の事情で塾に行けない子どもが増えている話をし、このような取り組みこそ、格差是正に繋がると訴えました。
③参加者は約３００名でした。

小中学校で一人１台のパソコン導入が２０２０年へ前倒しされ、ICT 教育に対する認知が進み、ちくま未来教室の来訪者が増えた。夏期講習（2022/7/23~8/29）は参加者が 282 名で、人数制限をするほど、多くの親子がちくま未来教室を訪れた。プログラミング講習に一緒に訪れた親子にインタビューすると、「小学校でやっているプログラミング学習をもう少し深くやりたいと思っているが、この地域では通う教室も年齢的になく、困っていた。実際体験してみるととても興味深く家でもできることがわかり役立った」との意見があり、地域での評価をただけた。
ＮＨＫが、知事選に絡めて、経済的に困窮している家庭への学習支援をしている団体として、夏期講習を取材していただいた。知事選の争点として、子どもの貧困問題の解決として、無料学習塾を行っている団体としての意見を述べたが、20 年前教育現場にいたときより、家庭の経済的格差が広がっていることやそれに伴って子どもの学力格差が広がっているとお伝えした。子どもの貧困問題が取りざたされてから数年たつが、家庭環境に依存することなく学力をつけるためには、本事業のような子どもの居場所での学習環境の提供が必要であるとはなし、その訴えが夕方のニュースでも取り上げられた。
③ ちくま未来教室　ICT ラボを開設

①より専門的な研究をするために ICT ラボ開設しました。子どもだけでなく、大人も集まって最新のテクノロジーに触れる居場所を作りました。
②ちくま未来教室でのプログラミング教室の開催を月二回に増やしました。
③民間のプログラミング教室に比べ安価である（無料）ので多くの親子が参加しやすいことで、学びたいけれど学べない家庭の下支えになりました。
④メンバーで教材をつねに研究し最新の教材、低年齢のコンテンツも多く設けて好評を得ました。

④　基盤整備のためのプロボノ経営支援

①プロボノ活動での IT コンサルティング　株式会社ディルバート（6 名）からコンサルの申し出があり 3 か月の支援を 2 回行っていただきました。
②ブランディング強化、ファイナンシング強化のための 6W1H 分析を行い、毎週 1 回 1 時間のミーティングを行いました。
③中長期計画の立案　実行計画書、短中期実行スケジュール、TODO リストの作成でかささぎの組織基盤を確かなものにしていただきました。



株式会社 Dirbato より、プロボノ活動でのコンサルティングの支援（メンバー10 名）を受けており、現状分析/市場調査、関係者の相関図を整理、事業類似した NPO 法人についても調査を行っていただいた。ブランディング強化、ファイナンシング強化のための 6W1H 分析を行い、

毎週１回１時間のミーティング（Teams'を使いファイル共有、スケジュール管理、チャット機能あり）で、かささぎの強みや弱みを見つけ、少ない人数でも多くの成果を得るために、どのような方策があるか検討していただき、実行計画書、短中期実行スケジュール、TO DO リストの作成を行った。4 月から 8 月までは TO DO リストの通り、実行するべく伴走支援を行っていただいた。ドナージャーニー分析やコングラントの導入による資金の流れを作っていただいた。毎週、討論することで、NHK の取材や企業への問い合わせの際に、かささぎの理念や理想をうまく組み立てて話すことができるようになり、支援者の広がりにつながっている。

⑤　新規事業　　長野市生活困窮者学習支援事業の受託

① 長野市生活支援課より、生活困窮家庭学習支援の派遣型事業の業者として、お願いされ、２０２２年６月１日より、長野市生活困窮者学習支援事業実施事業者登録をしました。
② 月二回、生活困窮家庭へ学習支援に行き、家庭環境を見ながら、学習支援を行っています。
③ この事業を行っていることで､困窮家庭学習支援をしている団体としてNHKの取材を受けることになりました。

長野市の生活支援課は、市内に住む母子家庭など 80 件を対象に小学生、中学生、高校生の家庭に直接赴き、2 時間の学習を行う事業長野市生活困窮者向け学習支援を行っているが、GIGA スクールやオンライン学習など教育現場でのＩＴ化が進んでいることで、銀のかささぎの ICT 学習に興味を持っていただけた。これからは、市の予算でもタブレットを導入して学習支援に充てていきたいとの相談も受けており、アドバイザー的な役割を担っている。

⑥　新規事業　小中学校　ICT サポーター事業

①GIGA スクールで ICT 学習のサポート事業の需要が高まりもあり、飯綱町教育委員会の小中学校へ月 3 回 ICT サポーター派遣事業を行うことになりました。
②教材選定や Google のコンテンツの利用方法、電子黒板の使い方、管理職の学校事務での使い方や授業支援など幅広く対応しています。

日本の教育現場での ICT 化は、他の先進国に比べて遅れているのが実情である。タブレットやパソコンは教職員用が Windows の OS,、児童生徒は Google のアプリを使って iPad を使っている。ネットワークも切り分けされていて、教職員の方はかなり使いづらい。半面、子どもたちはどんどん使えるようになっていて、持ち帰った場合の利用制限など整っていないことも多い。しかしながら、コロナ渦では学級閉鎖になった場合、オンラインに切り替えて学習ができるようになっており、少しずつであるが ICT 学習が前進している。サポート事業は学習教材の提案だけでなく、コロナ渦で音楽会をオンラインでやる方法の試行錯誤や、学校アンケートの Forms を使った集計方法、養護教諭の児童生徒の出欠簿、保健管理のグラフ化等、様々なお悩みのお手伝いをしている。

⑦　日本ライオンズクラブ　寺子屋学習支援事業パートナーの締結

①公益財団法人日本ライオンズクラブと、児童養護施設の学習支援を推進する事業を行うことになり、かささぎは、中部:東海及び北信越地区の主管組織と位置づけられることになりました。各地区 5 ケ所の児童養護施設への学習支援を目指しており、飯田おさひめ、三帰寮など訪問し、現在、富山の学習支援場所を探し、提携できる組織を探しています。
②学習支援運営費、交通費、日当など支援を受けています。
③2023 年 3 月 17 日に北海道、仙台の主管組織と情報共有のために札幌に行くことが決まっています。

北海道の小野寺学園から（日本ライオンズクラブの寺小屋事業）の要請があった。こちらは、地域別の主管組織としての位置づけをお願いされ、カコタムは 331 地区(北海道地区)の主管組織、セイブアライフは 332 地区(東北地区)の主管組織、銀のかささぎは 334 地区(中部:東海及び北信越地区)の主管組織と位置づけていただき、各地区 5 ケ所の児童養護施設への学習支援を目指すことになった。児童養護施設での ICT 学習支援は、2012 年の東京、調布学園、2013 年に長野の松代福祉寮で学習支援を始めて、10 年になる。その間に長野県児童養護施設連盟とのつながりもでき、今まで培ってきた学習モデルを日本ライオンズクラブの支援で全国に広げていけるチャンスだと考えている。

⑧　公務員向けの雑誌、自治研より GIGA スクールについての功罪についての現場からの声としての執筆の依頼を受けた。前頁 8 枚の長文であったが、掲載されると他地域からの問い合わせが相次いだ。

５－３事業の効率性

ちくま未来戦略研究機構と協働で子どもの支援や講演会、IT 講習などを行うことで、2020 年秋以降は予定通りに計画どおりにイベント、講座は開催できた。イベントや講演会では、千曲市・千曲市教育委員会の後援を受けることができ、チラシの配布など行政の支援もあり、集客につながった。ちくま未来教室の夏期講習では、市内小中学校全校児童生徒へチラシを配布できた。そのため、3 年目の参加人数はとても多く、内容も IT だけでなく算数教室や英語教室など多岐に渡ることでニーズにこたえることが出来た。

６，成功要因・課題

要因分析の結果

コロナウイルスの蔓延により、当初の計画では居場所づくりをして学習支援を行うはずであったが、アウトリーチとオンライン学習に切り替えた。児童養護施設 2 カ所や子どもの居場所 1 か所への学習支援を行ない、そこにいるグレーゾーンの子どもやひきこもりがちの子どもへの学習支援をオンラインで行うことができた。子どもの居場所にっこりひろばでは、教室に入れないが学校へ行ける子どもへの学習を続けたところ、タブレット学習が気に入り、学習への興味が高まり、教室へ復帰できた子どもが５名中２名いた。これは、学習支援のコンテンツをタブレットのアプリ２０以上の導入、プログラミング機器３コンテンツ、低学年用プログラミング教材を導入したことによるものが大きい。多くの学習体験が、子どもの知的好奇心を刺激して、学習意欲の向上につながったと考えられる。

ちくま未来教室に 3 年間通ってくれた子どもを例に上げると、はじめは、プログラミング学習の scratch をやりに来ていたが、microbit や toio など多くの教材を経て、自分でプログラミングが自由にできるコンテンツにたどり着き、コンテストにも出場し上位に入賞した。

プログラミング学習は先進的なコンテンツを試行錯誤した結果、ICT ラボが生まれ、夏期講習など多くの子どもたちが最先端の IT ツールを使って学習を行うことができた。今の子どもたちは、複雑なゲームを使いこなす世代である。こちらが用意した ICT 学習ツール（プログラミング学習ツール）では飽き足らず、より複雑で面白いものを求めることが分かった。私たち支援する側も学びをすることの必要性を感じ、多くのコンテンツの学習をした。また、最終年度は、ICT だけにとどまらず、算数教室や英語教室、宿題応援講座など多くの教室を無料で提供し、市民の皆さんに喜ばれた。

企業経営をしていた、シニアの団体ちくま未来戦略研究機構と協働で事業を行ない、多くの IT 講座（一般向け）や千曲市民向け講演会を行った。ちくま未来戦略研究機構がちくま未来新聞を発行していることもあり、ブランディングとして、知名度を上げることができ、千曲市内に会員が増えた。

本事業のポータルサイトを立ち上げたことにより、全国へ発信することができ、北海道や東京など企業のプロボノや寄附等、支援者が増えた。

① 社会課題解決に貢献したアウトカム

1 経済的困窮など、家庭内に課題を抱え不登校になる子どもが、ＩＣＴ学習支援で一歩踏み出せるようになる。

2 千曲市地域を構成する住民、屋代商店街や企業、千曲市教育委員会など様々な資源とつながり、子どもたちを支える。

3 今まで一歩も外へ出ることができなかった子どもがＩＣＴの力で居場所を訪れ経験値や思考を増やす。

4 シニア層が多い団体と協働し、老若男女問わず集まれる拠点が生まれる。

6 本事業でＩＣＴ学習支援メソッドを作り、全国へ発信する。

② 達成が困難であったアウトカム

5 ひきこもりがちだが就労意欲のある若者の支援することで、地域の担い手となり、働き手が生まれ、人手不足が解消する。

千曲市教育委員会との連携し、夏期講習やプログラミング学習の集客はあったが、引きこもりの子どもの多くいる中間教室現場の先生方のＩＣＴ学習への理解が得られなかった。千曲市のひきこもりがちの若者とつながる手立てを模索したが、就労支援までいかなかった。

７、その他深堀り検証項目

コロナ渦でのオンライン学習について

今まで培ってきた ICT 技術をコロナウイルスの影響で学習進度が遅れている子どもたち（子ども食堂や児童養護施設の子ども）へ活かすことができないか、研究しました。アンケートを各所にとり、家庭におけるインターネット環境の有る無しや、パソコン、タブレットなどの有る無し、どのような支援が必要かを検証しました。すると、スマホは家庭にあるが、パソコンやタブレットが家庭になくオンライン学習をする環境のない家庭は当団体が取ったアンケートによると 25％以上あることもわかり、児童養護施設では wifi はあるが、個人用のタブレットは

なく、光の契約はしていますが、実際にネットの構築に問題があり、うまくつながらない施設もありました。調査によると支援している子ども食堂の 50％の家庭にオンライン学習の環境がないことも分かりました。そこで、貧困家庭や児童養護施設へ通信機能付きタブレットを貸し出し、学習用アプリを使ったプログラムを提供することで、家庭や施設に IT の環境のない子どもへの学習支援を行うことが格差是正につながると感じました。各所へ働きかけの結果、企業や行政の支援を受け、オンラインの学習支援を始めることができました。まず、学習アプリが入っているタブレットを希望の子どもに貸出ます。週に 1～2 度、学習コーディネーターと Zoom を使って学習の進捗状況を確認しあい、進捗状況を確認し、わからないところや不安なところをアドバイスする学習支援を始めました。学習コーディネーターは、元教員や学生が行い、アンケートを取り、学習の進み具合を見ながら進め、月に 2 回の対面学習支援も行いながら、子どもたちに寄り添った学習支援を行いました。

(1) オンライン学習の強みと弱み

オンライン授業とは、インターネットを介して教育学習を行うことですが、一口にオンライン学習といっても、方法はいくつかあります。一般的には、自分の家でパソコンに向かい、画面の向こうの先生と話をするというイメージが多いかもしれませんが、かささぎの場合、非同期型のオンライン学習と同期型のオンライン学習を組み合わせて行いました。

① 非同期型のオンライン学習

学習教材のアプリが入ってるタブレットを貸し出し、子どもは自由な時間に勉強します。独自の Youtobe チャンネルを開設し、動画をアップしたものを、子どもたちは自分の都合の良い時間に視聴して学習します。子どもは自分の好きな時間に自分のペースで取り組むことができ、同じビデオを何度でも視聴できます。同時ではないので、多人数の学生が安定してビデオや音声を受信できるインターネット環境を心配する必要が比較的ありません。

しかし、欠点もあります。自分で課題に取り組むことを苦手とする子どもには、非同期型のオンライン学習は課題があり、子どもの自主性に任せる部分が大きいので、子どもにとってやりたくなるような魅力的なコンテンツを提示する必要があります。

② 同期型のオンライン学習

週に 1，2 度、かささぎの学習コーディネーターが講師となり、同時配信で学習支援を行いました。子どもと先生が画面越しで双方向にやり

取りすることで、今まで行った学習の質問を受けたりほかの子どもの話を聞いたりすることができました。子どもにとってはその場で先生に質問ができ、友達と一緒に勉強している実感を得やすい方法です。半面、同時に多くの子どもたちがネットワークに入るので、広帯域のネットワークの環境整備が必要になります。家庭での子どもの環境は一律ではないので、声が聞きとりにくい場合や画面が映らない家庭も考えられ、同じ環境で行う難しさがあります。しかしながら、コロナ禍で家庭にこもっている子どもたちが双方向にやりとりできることで、精神的満足感を得られ、子どもたちがそれぞれ取り組んだものに対する反応がすぐ帰ってくることは子どもの思考を育てることにもとても大事なことだと思われました。

③　　ハイブリット学習

オンライン学習で子どもの学習を支援しましたが、やはり難しい部分もありました。オンラインにこだわることで、折角つながった 1 時間のうちの半分以上がネット回線のトラブルの解消に追われることもありましたし、小学校 1~2 年の子どもに、オンラインでつながるというのはそもそも無理があり、IT が使える大人がそばにいることが前提になることに気づきました。かささぎの貸し出したタブレットには学習アプリが入っているので、オンラインでつながらなくても勉強したいときに学習すればよいので、無理につながる必要はありません。なので、宿題は非同期型で行い、コミュニケーションは同期型で行う、二つの型を併用したやり方をハイブリッド型オンライン学習に行きつきました。宿題を非同期、同期を最小限にすることで、想定外の回線の切断のリスクを回避することができます。非同期のオンラインの良さは問題を解く時間は子どもによってまちまちであるという問題点をクリアできることです。事前に学習を投稿できる非同期学習は家庭での学習時間は自由に設定でき、同期オンラインの時に質問や答え合わせを行うことで、子どもたちの学びが深まっていきます。

児童養護施設の子どものオンライン学習

④　　家庭の協力が不可欠

オンライン学習の方法論について述べてきましたが、このような学習についていくことができる大人が家庭に一人は必要であるということがわかってきました。IT リテラシーは家庭によって大きく違い、インターネット環境はあるが、パソコンがない家庭、スマホを家族全員持っているので、光回線は解約した家庭、パソコンもネット環境もあり、子ども用のタブレットやパソコンもある家庭などまちまちで、オンライ

ン学習の普及は一筋縄ではいかないということ気が付きました。もう一つの課題は、子どもが個人で取り組むことの難しさです。オンライン学習は基本的に子どものやる気に依存します。オンライン学習の場合、もし、勉強をしたくなければ、やらなくてもよいという選択肢も与えてしまい、皆で顔を合わせて同じ課題に取り組んでいたときは勉強ができていた子どもも、一人になるとできない子がいるということもわかってきました。課題の提示の仕方など、これからの改善の余地があると考えています。そして、特に感じることは、今の子どもたちの教育には、家庭と学校（この場合はかささぎ）の連携が不可欠だということです。子どもの IT を使った学習には、子どもの意欲、家庭の協力、先生の適正な導きが三位一体となり、歯車が回らなければ難しいでしょう。家庭環境が悪く、教育がおろそかになりがちな家庭や IT に関する知識やアドバイスなどできない場合、子どもはその分学校で不利になります。そのような子どもたちを救う手立てを考えていくことが、これからの日本の教育を考える上で重要なことだと思います。統計では、子ども専用のパソコンの購入を考えている家庭が 6 割、それに対して、購入も入手予定もない家庭が 3 割です。その差はますます開くばかりです。学校教育で新しく取り入れられるようになったプログラミング学習や GIGA スクール構想の実現のための素養は、家庭力に頼っているところがあるのが今の日本の課題だと思います。

(1) 大人のデジタルディバイド（情報格差）

デジタルディバイドとは、「デジタル（digital）がもたらす分断（divide）」、すなわちインターネットやパソコンなどの情報通信技術（ICT）を利用できる人とそうでない人の間にもたらされる「情報格差」のことです。仕事柄、様々な方に IT 講師として接してきましたが、IT を学ぶということは、意外と多くのことを覚えたり、根気よくできない原因を追究したり、総合的に物事を判断する力が必要になります。たとえば、「先生、ここだけ教えてください」という生徒さんは、それ以上覚えないので、そのあとが続きません。一生のうちで、どこかで一度 IT を一通り学ぶことで、違うデバイスやＯＳが出てきても、応用する力が身につくはずです。また個人の努力も必要ですが、これ以上日本のデジタルディバイドが進まないように、社会人が気軽に学習できる社会人講座の充実が不可欠だと考えます。諸外国に比べて、社会人の IT の遅れを著しく感じていますが、それは日本に社会人が学び続ける発想が乏しく、生涯学習をする施設も不十分なところです。AI により労働環境が変わり、今までの仕事が 20 年後はなくなると考えられている今、私たち大人も AI 時代を生き延びるために生涯学び続ける必要が出てきています。管政権ではデジタル改革という政策を掲げており、行政や教育のデジタル化、テレワーク導入の促進などが進められる予定ですが、学びや業務の効率化に期待ができる一方、デジタルディバイドが広がることも懸念されています。多くの人が同じレベルで IT が扱えるにはどのようにすればよいのかを皆で考えることが必要です。

※総務省が発表した 2020 年版「情報通信白書」では、年収 1,000 万円以上の層のインターネット利用率が 94.5％であるのに対し、年収 200 円万未満の層の利用率は 80.7％とされています。また年齢別のネット利用率では、13 歳～69 歳は 90％を超える一方、70～79 歳は 74.2％、80 歳以上は約 57.5％と、日本では世帯年収や年齢によって格差が生じていることが明らかになりました。

８、結論

経済格差が顕著になった現在、経済的困窮などで子どもを塾に行かせることが出来ない家庭や、夏休みなど長期休暇の間、子どもを預ける場所がない家庭のために、無料で学習支援を受けられるちくま未来教室を運営したことは、多くの成果につながった。また、子ども・若者の学習支援の居場所としてのみならず、ちくま未来戦略研究機構と協働で居場所の運営を行ったことで、シニア向け IT 講習や講演会等で老若男女が集う場所となり、今年度はシニアのちくま未来大学の開設に向けて IT 講座や能講座、歴史講座と様々な分野の教室が継続的に行われるようになった。閉塞感のあった屋代駅前商店街に学習の拠点が生まれ、多くの人々が集う場所ができた。

ちくま未来教室のあるビルは使われていないホテルの一角であるが、今後は空いているホテルのスペースが有効的に活用できるように引き続き活動を続けて、コワーキングスペースの創設や老若男女多くの人たちが行き交うＩＣＴ図書館のような役割を持った場所とちくま未来大学の校舎としてＩＣＴを中心に集う場所として盛り上げていきたいと考えている。

９，提言

ギガスクールにより子どもたちの機械に対する好奇心が旺盛になり、ICT だけでなくいろいろなことに興味を持ち、友だち同士で研究し、熱中する姿が見受けられることが増えた。プログラミング学習などは先生より子どものほうが習得が早く、逆に先生が子どもに教わる場面も出た現在、私たち大人ができることは、子どもが迷っているときに、「こんな方法もあるよ」と選択肢を与えられる存在になることかもしれない。自治体への提言としては、経済的に恵まれない子どもでも通える ICT の居場所を作り、IoT デバイスをその場でハンズオン形式や自習形

式で動かし、周りの人と協調して作ったり、動かしたりすることで培われる学習が自由にできる空間を、１NPO が作るのではなく、自治体の資金やマンパワーを投入して、全国に作ってほしい。

10、知見・教訓

・多くの子どもたちは、IT に慣れ親しんでいるので、複雑な家庭環境で今まで学習に向き合えなかった子どもでもゲーム性が高い学習コンテンツであれば、集中して学習に取り組むことができることがうかがえる。

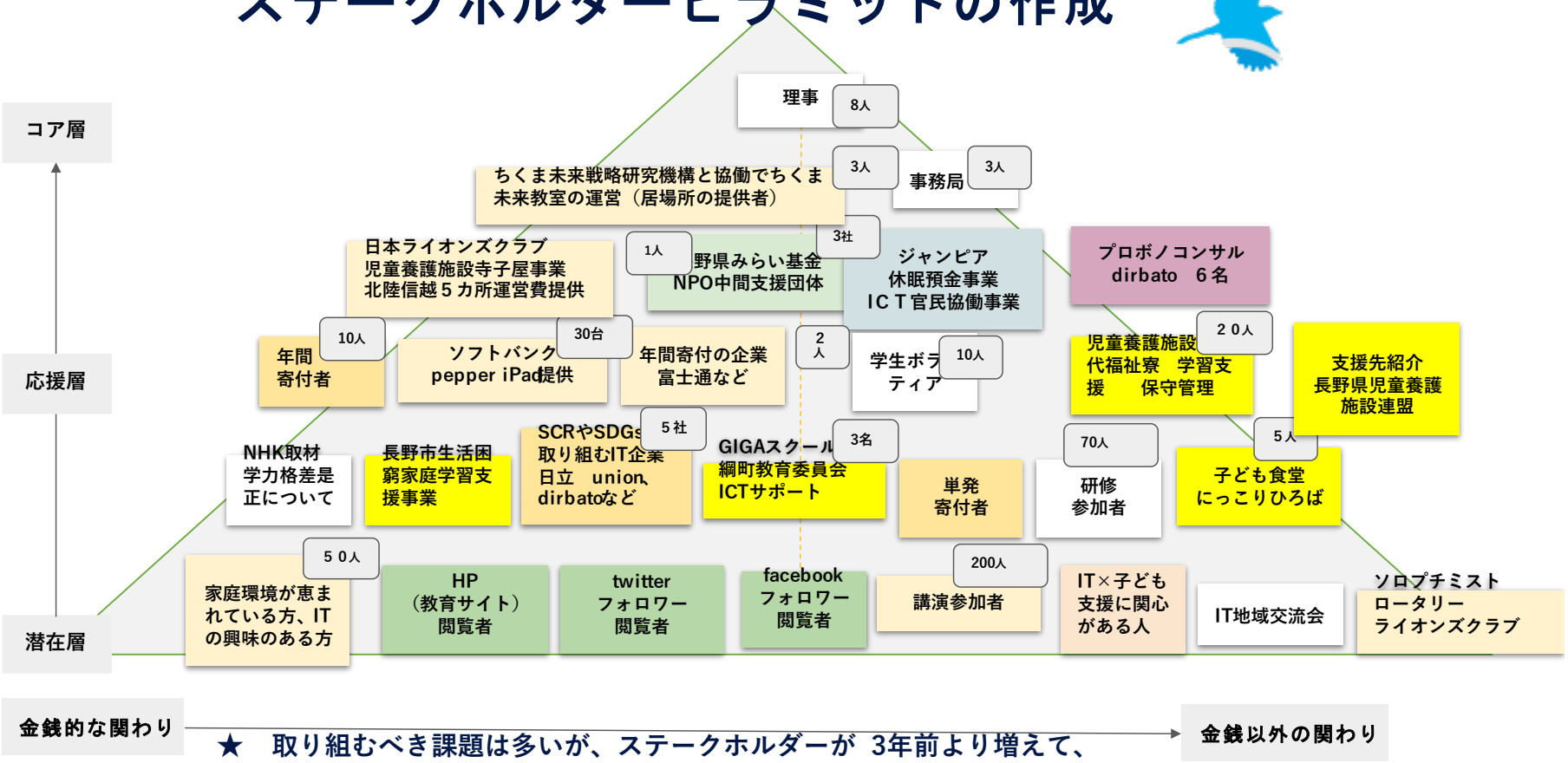
・休眠預金事業で学んだ、地域の人が他団体との協働事業が、組織が小さいかささぎにはとても親和性があり、他団体との連携を行うことで多くのコレクティブインパクトを生むことができた。そして、それを発信することで、日本全国からの問い合わせが増えた。休眠預金事業を 3 年間行ったことで、活動を多くの方に知っていただき多くの支援を集めることができた。

11、資料

ディルバート資料

自治研資料

ステークホルダーピラミッドの作成



★　取り組むべき課題は多いが、ステークホルダーが 3年前より増えて、休眠預金事業の成果がみれます。

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）

iPad 学習支援

プログラミング学習

プログラミング学習

プログラミング学習幼児用

英語講座（夏期講習）

バルーンアート教室（夏期講習）

算数教室（夏期講習）

IT 講習（ちくま未来大学）

銀のかささぎ

ＩＣＴ学習支援官民協働事業

【中長期アウトカム】すべての子ども、若者が家庭環境に依存することなく学習の機会を得られ、
ＩＣＴを使った最先端の研究・開発の一端を担い、新しい街づくりに貢献できるようになる。

2020/4　2020/10　2021/4　2021/10　2022/4　2022/10　2023/3

コロナ感染拡大 → 長引くコロナ → 中間評価 → 事後評価

連携
環境づくり

子どもの居場所団体の
紹介　Zoom会議開催

対象者への到達

アウトリーチ
提案

Outcome 01
経済的困窮など、家庭内に課題を抱え不登校になる子どもが、ＩＣＴ学習支援で一歩踏み出せるようになる。

- 2020 千曲 機構と 教
- 20 不登校の現状 合教育セ
- 11/14ちくま未来教室 キックオフ ーナショナルスクールオブ長 連携して教育映画上映会と セッションを行い、地域の団体や対象者に周知
- コロナの蔓延で、アウトリーチとオンライン学習に切り替える
- GIGAスクールが始まりchromebookを10台導入する メンバー間で研修
- 自治研からGIGAスクールの真実についての執筆を依頼され10ページを寄稿したところ、全国から問い合わせが相次ぐ。
- 株式会社モリカワなどSDGｓの高まりで賛助企業が増える
- アウトリーチとリアルのハイブリッドの導入
- ICTラボ入会パンフレットの作成をして会員を募る
- 研究したプログラミング機材を貸し出すレンタルシステムを開発し、ちくま未来教室にプログラミング図書館を作る
- 2022/7 児童施設へ対面学習再開する
- ブシロード社長、グレート無茶氏を呼び企業向け講演会を行い、賛助会員、寄附金を募る
- 長野市生活支援課 生活困窮者家庭への 学習支援を受託

Outcome 02
千曲市地域を構成する住民、屋代商店街や企業、千曲市教育委員会など様々な資源とつながり、子どもたちを支える。

- 20 にっこりひろば 子どもの居場所で iPad学習開始
- 2020/7 シニア向けIT教室を始める
- シニアボランティアが育つ (土井・小針)
- コロナでオンライン学習の需要が高まる
- にっこりひろばでグレーゾーンの子どもへの学習支援を行い教頭先生より感謝される
- 2021/8 未来教室で夏期講習を毎日開催しプログラミング・算数教室、英語教室を無料で行い好評を博す
- 伊那市ハミングへ視察し、休眠預金事業について情報共有をする
- オンライン学習で不登校支援
- 2022/4～ プログラミング教室を月2回行う
- 2022/7～8 夏期講習で、算数教室、英語教室など無料学習塾を行い多くの子どもたちが訪れる
- NHK取材から貧困家庭の学習支援についての取材を受け教育格差の是正を訴える
- 2022/11 ちくま未来大学 ICT活用講座を10回コースで行う
- 飯綱町教育委員会 小中学校ICTサポーター事業の他地域への展開

Outcome 03
今まで一歩も外へ出ることができなかった子どもがＩＣＴの力で居場所を訪れ経験値や思考を増やす。

- 2020/4 ながの地域まるごとキャンパスでボランティアを募集開始する
- 2020/7 ボランティア学生向け勉強会を行う
- 月2回対面学習開始 プログラミング iPad学習支援
- ちくま未来戦略研究機構と協働でワークショップ
- GIGAスクールが始まり小中学校PC一人一台となりITサポートが増える
- 月2回のプログラミング教室を行う傍ら、プログラミング・学習コンテンツの研究 microbit・クムクム・toioなど 試行錯誤を繰り返す
- ソフトバンク つながる募金
- ロイロノート 研修
- オンライン 一長一短あり 難しかった
- プロボノコンサルで 基盤整備
- 2022/3 シニア向けスマホアプリ教室
- 市議会議員 県議会議員 へ訪問し活動をお伝えする
- 2022/9 多く参加したボランティア学生へ賞状授与
- よろずやホテル跡地に ちくま未来教室＆ ちくま未来大学、コワーキングスペースの拡充

Outcome 04
シニア層が多い団体と協働し、老若男女問わず集まれる拠点が生まれる。

- iPad・PC アンドロイド購入
- オンライン学習機材、ビデオカメラ購入
- オンライン学習方法をの試行錯誤する
- ポータルサイトサイト構築
- 2021/1 松代福祉寮で 東京の学生とオンラインでつながるイベントを行い好評を得る
- 2021/5 地球まるごとキャンパス 学生ボランティア募集
- 富士通ラーニングメディアから寄付金をいただく
- 松代福祉寮にひろゆきPCを5台寄附する
- 東京のコンサル会社ディルバートからプロボノの打診を受ける
- MDRTから寄附金をいただく
- 長野ソロプチミストでZOOM講座を行う
- 学校支援 飯綱町 牟礼小学校、 三水小学校へ ICTサポーター として派遣する
- 市長訪問をしてちくま未来教室の成果を報告する
- ボランティア 島田さん (車イス)
- 三帰寮　おさ ひめ（飯田） 児童養護施設 学習支援
- ボランティア学生がかささぎの推薦状で 志望大学に合格する
- 2023/04以降 日本ライオンズクラブ寺小屋事業パートナー として他地域への展開

Outcome 05
「ＩＣＴちくま未来教室」でひきこもりの若者や仕事をしたいが就職できない若者向けの就労支援の講座を開く。

- 先進地視察 東京NPOむくへ視察
- MDRT・富士通ラーニングメディア寄附金
- ぷれジョブ・はみんぐICT学習の相談に乗る
- ICTラボの創設 幼児向けプログラミング教材・アンドロイドでプログラミング学習の施行錯誤を行い、月に一度はICTラボとして研究を行う日を設ける
- 休眠預金 パンフレット 作成し、各所へ配布する
- ちくま未来ポータルサイトを作成・公開する。
- ライオンズクラブ児童養護施設への学習支援の協力の打診を受ける。
- ディルバート コンサル　週一回 ブランディング・ファイナンシング
- 新規高校生ボランティアを受け入れて、講習を行う
- 富士通ラーニングメディアから寄付をいただき Zoom会議を行う
- 日立から児童養護施設の学習環境について問い合わせがあり、今後連携の予定
- 休眠預金事業報告書 パンフレット完成

Outcome 06
ちくま未来ＩＣＴ教育サイトを作り、情報を発信する。

- ボランティア 講習
- 2020/11～21/3 ちくま未来子ども教室 算数、英語、プログラミング学習、ICT学習支援無料塾を行う
- 大人向けIT講座 LINE、Facebook、SNS講座、ホームページ作成講座を週一回行う
- プログラミング教材開発
- キッセイコムテックICT支援飯綱 月3回ICTサポーターの依頼を受け、派遣事業を行うことになる。
- ひきこもりがちな若者への就労支援のための講座を商工会議所へ打診したが、開催は難しかった
- ディルバートコンサル　週一回　6名のコンサルタントが ブランディング・ファイナンシングについて指導を受ける
- 銀のかささぎはの中部:東海及び北信越地区の主管組織と位置付けられ五カ所の児童養護施設の学習支援の助成を受けることになった。2023/03　札幌で事業発表

商工会議所へ打診→断念

他地域のこども居場所団体の紹介

コングラント始める
クラウドファンディング

連携環境醸成支援

対象者への到達アウトリーチ支援

アウトリーチ支援

事業継続支援

行政からの受託

地域組織との出口連携

行政連携の充実・団体間連携による横展開・連携の充実
アウトリーチ支援とリアル支援のハイブリッド事業への展開

みらい基金・伴走支援

- 緊急助成によるコロナ対応への支援
- 関係者への当事業協力依頼・対象者の掘り起こし方策検討
- 対象者掘り起こし検討（アウトリーチ）
- 関係者への当事業協力依頼・対象者の掘り起こし方策の検討
- 千曲市連携　日本財団第三の居場所　旧医師会事務所

Stakeholder Map

- ちくま未来戦略研究機構
- 松代福祉寮
- インターナショナルスクールオブ長野
- 千曲市教育委員会
- 恵愛
- にっこりひろば
- 三本柳小学校グレーゾーン
- 高校生ボランティア
- 松代福祉寮
- MDRT日本会交流会
- 恵愛
- にっこりひろば
- ちくま未来戦略研究機構
- 長野市生活支援課
- 恵愛
- 松代福祉寮
- 日本ライオンズクラブ寺子屋学習支援事業
- ICT地域交流会
- キッセイコムテック　小中学校学習支援
- プロボノコンサル　ディルバート
- ちくま未来大学